

2024 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

本センターでは、環太平洋地域を中心に、広い時間的・空間的スケールをもつ人類史的視点から社会や文化のレジリエンスのあり方を解明することを目的に、古気候学、環境考古学、考古学、歴史学、災害地理学、文化人類学、資源地政学など多様な分野による学際的研究を推進している。第4期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム「人類史的にみた災害・食糧危機に対するレジリエンス強化のための学際的研究拠点」と緊密に連携し、2024 年度は以下に述べる成果を上げることができた。

1. 学際的研究によるレジリエンスの人類史研究

特筆すべき成果としては、当センターと連携する R-GIRO 研究プログラムの一員である中川毅教授が研究代表を務める学術変革領域研究(A)「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来」が採択された。また、センター長の小川さやか教授が2024年度(第39回)大同生命地域研究奨励賞を受賞した。4つの研究課題における成果の概要は以下のとおりである。

・研究課題1 生活時間スケールで見た気候変動と災害史の復元: 数十年スケールでのいわゆる「暴れる気候」を解明するために、福井県水月湖と、メキシコのサン・クラウディオ湖の年縞堆積物の解析を進めると同時に、新たにグアテマラのペテシュバトゥン湖でも採取を行った。

・研究課題 2 生活資源リスクと災害に対する過去社会のレジリエンス研究: 気候変動によって生まれる自然災害と食リスクの相互作用に着目し、将来に生じうる食と災害リスクの可能性の分析を進めた。また、琵琶湖湖底にある葛籠尾崎湖底遺跡で水深60mの湖底からボーリングコアの取得に成功した。環境史と地域社会のレジリエンスの関係解明が期待される。

・研究課題 3 生活資源リスクと災害に対する現代社会のレジリエンス研究: サプライチェーンの脆弱性について、サプライチェーンの切断リスクに着目し、モンゴルのゾド(夏の干ばつと冬の雪害による自然災害)に対するレジリエンスを調査した。また、米国において海洋環境の持続的な利用と地域のレジリエンスについて調査を行った。

・研究課題 4 文化情報と社会レジリエンスモデルの社会実装: 「アーキオロジカル・プロトタイプング(AP)」の実用化に向け、株式会社アイシンとの共同研究を進めた。また、社会や個人のレジリエンスを高める体験的なデジタル・エスノグラフィの構築について研究を進め、成果の一部はシリアスゲームの素材に使用された。

2. 研究活動を社会に向け広く公開する取り組み

①2024 年 10 月に大阪いばらきキャンパス(OIC)で開催されたアジア・ウィークでは、モンゴルの災害レジリエンスを紹介するために移動式住居「ゲル」を会場に設営した。アイシンと共同開発中の「ピーボ」の展示とシリアスゲーム紹介を行った。

②2024 年 11 月のびわこ・くさつキャンパス(BKC)で開催されたウェルカムデーでは、水月湖の年縞サンプルの実物やペルレーの遺跡の VR、江戸時代の災害食のポスターの展示を行った。

③2025 年 3 月の立命館土曜講座:「江戸時代の飢饉対策と救荒食」と題して講演を実施した。

④刊行物としては、『環太平洋文明研究』第 9 号を公刊した。さらに、実践的なヒントを盛り込んだ一般読者向けの書籍出版を目指すことが決まり、第1回の編集会議と議論活性化のための研究会を開催した。

3. 研究成果の教育利用と社会実装に向けた活動

高等教育アクティブ・ラーニング用ゲーミング・シミュレーション「食糧危機と内戦、そして難民」や、シリアスゲームである文化人文学者ゲームの開発を進め、一部は大学の授業で活用された。また、大型研究助成の獲得を視野に入れ、「人社系の知と産官学地連携によるオープンイノベーション・エコシステム共創拠点」(仮称)を設立するための申請書作成に着手した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割		氏名	所属	職位
センター長		小川 さやか	先端総合学術研究科	教授
運営委員		中川 毅	総合科学技術研究機構	教授
		サウセド・ダニエル	政策科学部	准教授
		山田 圭太郎	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
		鎌谷 かおる	食マネジメント学部	教授
		河角 直美	文学部	教授
		高橋 学	文学部	特任教授
		矢野 健一	文学部	教授
		NOXON Corey Tyler	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
		宮脇 昇	政策科学部	教授
		玉井 良尚	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
		村尾 るみこ	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		北場 育子	総合科学技術研究機構	准教授
		保井 智香子	食マネジメント学部	教授
		早川 貴	食マネジメント学部	授業担当講師
		岩田 京子	衣笠総合研究機構	研究員
		後藤 智	経営学部	教授
		山上 亜紗美	政策科学部	授業担当講師
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	郡山 志保	立命館グローバルイノベーション研究機構	研究員
		シン・ジュヒョン	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	有馬 恵子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程 5 年
		福田 浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程 5 年
		費 一桐	経営学研究科	博士課程後期 5 年
		酒向 溪一郎	先端総合学術研究科	博士課程後期 4 年
	学振特別研究員 (PD・RPD)			

その他の <u>学内者</u> (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)			
客員協力研究員	福田 耕治【上席】	早稲田大学政治経済学術院	教授(名誉教授)
	藤木 利之	岡山理科大学理学部基礎理学科	准教授
	清水 昭	福島県立医科大学	特任教授
	北川 淳子	福井県年縞博物館	学芸員
	那須 浩郎	岡山理科大学教育推進機構基盤 教育センター	准教授
	山田 和芳	早稲田大学人間科学学術院	教授
	小野 林太郎	国立民族学博物館 学術資源研 究開発センター	准教授
	福本 侑	島根大学エスチュアリー研究セン ター	客員研究員
	尾関 清子	東海学園女子短期大学	名誉教授
	市木 尚利	東京都立志村学園高等部就業技 術科	臨時的任用教員
	宮多良 ディスネル	関西大学	非常勤講師
	中嶋 直樹	—	—
	真邊 彩	鹿児島県教育庁文化財課指定文 化財係	文化財主事
	福本 繁樹	金沢美術工芸大学	非常勤講師
	東村 純子	福井大学国際地域学部	准教授
	坂本 勇	東京修復保存センター	顧問
	富田 敬大	神戸大学大学院・国際文化学研 究科	特命助教
	稲垣 文昭	秋田大学大学院・国際資源学研 究科	教授
	森下 直紀	三重県立看護大学	准教授
	近藤 宏	神奈川大学人間科学部	准教授
	内尾 太一	静岡文化芸術大学・文化政策学 部	准教授
	劉 振業	近畿大学付属看護学校	非常勤講師
	三輪 佳子	自営	
	高橋 拓	文化資源活用工房ロフト	代表
	SAKATA GONZALES Yuri Alithu	立命館高等学校	講師
	高木 仁	立命館大学・文学部	非常勤講師
その他の <u>学外者</u> (他大学教員・若手研究者等)	外山 秀一	皇學館大学・文学部	教授
	高山 浩司	京都大学・理学研究科	准教授

	森 勇一	東海シニア自然大学	講師
	石田 智恵	早稲田大学・法学大学院	准教授
	上峯 篤史	南山大学・人文学部	准教授
	木村 啓章	大阪府・教育庁	技師
	幡中 光輔	出雲市・文化財課	主事
	中村 豊	徳島大学大学院・社会産業理工学研究部	教授
	遠部 慎	中央大学・人文科学研究所	客員研究員
	宮地 聡一郎	福岡県教育委員会	主査
	栞畑 光博	都城市教育委員会	主幹
	松森 智彦	同志社大学・人文科学研究所	所嘱託研究員
	菅原 大助	東北大学・災害科学国際研究所	准教授
	小野 映介	駒澤大学・文学部	教授
	桐村 喬	京都産業大学	准教授
	丸山 敦	龍谷大学	教授
センター構成員 計 66 名 (うち学内の若手研究者 計 6 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025 年 3 月 31 日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単 著 ・ 共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・ 号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	荘司 一步	『マウンド・ビルディング の考古学:先史アンデスに おけるモニュメントの はじ まりを問い直す』	単著	2024 年 12 月	臨川書店		
2	松本 雄一	『アンデス文明ガイドブッ ク (シリーズ「古代文明を 学ぶ」)』	単著	2024 年 12 月	新泉社		
3	山本 睦	「第 14 章 ペルー——街に とけこみ、あふれるチーフ ア」	単著	2024 年 11 月	川口幸大編、『世界の中華料 理』昭和堂		pp. 230-246
4	Atsushi Yamamoto	The Archaeology of Amazonian-Andean Interactions	共著	2024 年 12 月	“Oxford Research Encyclopedias, Anthropology” Oxford University Press. (https://doi.org/10.1093/acre/fore/9780190854584.013.479)	Ryan Clasby, Quirino Olivera Nuñez	pp.1-41
5	Rintaro Ono	The Prehistory of Human Migration: Human Expansion, Resource Use, and Mortuary Practice in Maritime Asia.	共著	2024 年 7 月	IntecOpen Publisher. Open Access E Book	Pawlik eds.	
6	小野 林太郎	「島世界へ移住したサピエ ンスと葬墓制」	単著	2024 年 8 月	『島世界の葬墓制:琉球・海 域アジア・オセアニア』雄山 閣		pp.7-38
7	小野 林太郎	「更新世後期～完新世中 期における海域東南アジ アの葬墓制」	単著	2024 年 8 月	『島世界の葬墓制:琉球・海 域アジア・オセアニア』雄山 閣		pp.47-68

8	小野 林太郎	「金属器時代以降のウォー レシアにおける複葬と崖 葬墓—考古学的資料と民 族誌資料の総合比較—」	単著	2024 年 8 月	『島世界の葬墓制:琉球・海 域アジア・オセアニア』雄山 閣		pp.103-123
9	小野 林太郎	「現代の風葬とドルメン葬 —バリ島トゥルニヤン村の 風葬とスンバ島の支石墓 —」	共著	2024 年 8 月	『島世界の葬墓制:琉球・海 域アジア・オセアニア』雄山 閣	片桐千亜紀	pp.131-135
10	小野 林太郎	「島世界における葬制の 起源とその発展史」	単著	2024 年 8 月	『島世界の葬墓制:琉球・海 域アジア・オセアニア』雄山 閣		pp.399-424
11	福田 耕治	「ウクライナ戦争とEU のデ ジタル主権」	単著	2024 年 5 月	『ウクライナ戦争とグローバ ル・ガバナンス』, 芦書房		pp.81-89
12	宮脇 昇	「OSCE の意義と限界 ミッ ションはなぜ撤退したの か」	単著	2024 年 5 月	『ウクライナ戦争とグローバ ル・ガバナンス』, 芦書房		pp.113-122
13	Taichi Uchio	“Chapter Six: Nationalism, Internationalism and Cosmopolitanism: A Comparative Analysis of the Concepts”	共著	2024 年 10 月	(eds.) <i>International Social Work of all People in the Whole World A New Construction Second Edition</i> , Junposha	Masateru Higashida, Tatsuru Akimoto, Kana Matsumoto	pp.280
14	Takahiro Tomita	“Reconstruction of pastoral management and local milk supply in suburban areas in Mongolia”	単著	2025 年 3 月	<i>Rural Transition in Post- pandemic Mongolia and Kyrgyzstan</i> , White Horse Press		
15	内尾 太一	「第 11 講 自然災害と被 災者の尊厳」	単著	2024 年 10 月	阪本拓人, キハラハント愛編 『人間の安全保障 東大駒場 15 講』, 東京大学出版会		pp.292
16	内尾 太一	「第 5 章 東日本大震災の 災害伝承施設とパブリッ ク・ヒストリー —— Google Maps レビューデータから 紡がれる声」	単著	2025 年 2 月	笠井賢紀, 田島英一編著 『パブリック・ヒストリーの実践 オルタナティブで多声的な 歴史を紡ぐ』, 慶應義塾大学 出版会		pp.296
17	内尾 太一	「第6章 ナショナリズム、 国際主義、コスモポリタニ ズム—概念の比較検討」	単著	2025 年 3 月	東田全央, 秋元樹, 松尾加 奈編,『国際ソーシャルワーク 新たな概念構築』, 旬報社		pp.250
18	玉井 良尚	「公共政策学教育とゲーミ ング・シミュレーション」	単著	2025 年 3 月	足立幸男, 窪田好男編著『こ れからの公共政策学7 政策 人材の育成』, ミネルヴァ書 房		pp.199-219
19	小川 さやか	「[対談]小川さやか×ツ バメアーキテツツ 「現代 の長屋を成立させる条件 のデザイン」」	単著	2024 年 4 月	ツバメアーキテツツ『ふたし かさを生きる道具』, TOTO 出版		pp.129-232
20	小川 さやか	「2 人はどのようにつなが るのか(第1章公共の扉 1公共と人)」	単著	2024 年 4 月	『高等学校公民 公共』, 教 育図書株式会社		pp.8-9
21	小川 さやか	「タンザニア人に学ぶ不確 実な未来を生き抜く知恵」	単著	2025 年 3 月	『高校生と考える未来への想 像力』, 左右社		pp.359-364

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単 著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有無
1	Yuichi Matsumoto	Informe Final Proyecto de investigación arqueológico Chupas, Ayacucho 2023.	共著	2024 年 4 月	<i>Research report presented to the Ministry of Culture of Peru.</i>	Yuri Cavero Palomino	pp.1-65	有
2	Keitaro Yamada Ikuko Kitaba Takeshi Nakagawa	A luminescence- derived cryptostratigraphy from the Lake Suigetsu sedimentary profile, Japan: 45,000- 30,200 IntCal20 yr BP	共著	2024 年 7 月	<i>Quaternary Geochronology</i> 83 (2024) 101588	David C.W. Sanderson, Charlie L. Rex, Alan Cresswell, Masayuki Hyodo, Michael H. Marshall, Gordon Schlola, Yoshiaki	pp.1-9	有

						Suzuki, Vanessa Nowinski, Ryuji Tada		
3	Keitaro Yamada Ikuko Kitaba Takeshi Nakagawa	A detailed record of large explosive eruptions from Japan between ~120 and 50 ka preserved at Lake Suigetsu	共著	2024 年 12 月	<i>Quaternary Science Reviews, Elsevier</i> , Vol. 346, 109021	Sophie O. Vineberg, Paul G. Albert, Danielle McLean, Takehiko Suzuki, Richard A. Staff, Junko Kitagawa, Christina J. Manning, Hannah M. Buckland, Gwydion Jones, Fumikatsu Nishizawa, Victoria C. Smith	pp.1-30	有
4	山本 睦	「ペルー、インガタンボ遺跡における LiDAR 測量とその成果」	共著	2024 年 12 月	『古代アメリカ』27 号	大谷博則、オスカル・アリアス、ガブリエル・ビジェガス、ケビン・エスピルトウ、鶴見英成	pp.1-10	有
5	NOXON, Corey Tyler	A Paleodemographic Approach to the Middle Jōmon Boom and Bust Population Pattern	単著	2025 年 3 月	<i>Japanese Journal of Archaeology</i> , The Japanese Archaeological Association, Vol. 12, no. 1		pp.2-30	有
6	Kazuyoshi Yamada	Pollen analysis of sediment core from Yukashigata Lagoon, western Japan: revealing human induced paleovegetation changes during the past 1500 years	共著	2024 年 12 月	<i>Terrestrial, Atmospheric and Oceanic Sciences</i> , 36(1)	Toshiyuki Fujiki, Toshimichi Nakanishi, Kazuyoshi Yamada, Kaoru Tabata, Haruhiro Ikeda	オンライン 掲載	有
7	Rintaro Ono	The Pleistocene maritime migration of modern humans in northern Wallacea: The cases of Topogaro in Sulawesi and Bubog in Mindoro.	共著	2024 年 5 月	<i>The Prehistory of Human Migration: Human Expansion, Resource Use, and Mortuary Practice in Maritime Asia</i> ,	A. Pawlik and R. Fuentes	pp.33-56	有
8	Rintaro Ono	Stable isotope variation in East and Southeast Asian marine ecosystems and its relevance for archaeological analysis. Environmental Archaeology.	共著	2024 年 5 月	<i>Environmental Archaeology</i> (https://doi.org/10.1080/14614103.2024.2352666)	Boulanger, C.; Roberts, P.; Lucas, M.; Ingicco, T.; O'Connor, S.; Sémah, A.-M.	オンライン 掲載	有
9	Rintaro Ono	Human dispersal and plant processing in the Pacific 55,000-50,000 years ago.	共著	2024 年 8 月	<i>Antiquity</i> 2024 Vol. 98 (400)(https://doi.org/10.15184/aqy.2024.83)	Gaffney, D.; Tanudirjo, D.; Djami, E. I.; Mas'ud, Z.; Macap, A.; Russell, T., Dailom, M.; Ray, R.; Higham, T.; Bradshaw, F.; Petchey, F.; Florin, S.; Roberts, P.; Lucas, M.; Tromp, M.; Greig, K.; Xhaufleur, H.;	pp.885-904	有

						Montenegro, A.; Hall, R.; Boulanger, C.; Spitzer, M.; Szabó, K.; Bertelli, I.; Ribechini, E.; Haberle, S.		
10	Rintaro Ono	Maritime cultural heritage	単著	2025 年 2 月	MINPAKU Anthropology Newsletter 59, 国立民族学 博物館		pp.3-5	無
11	Toshiyuki Fujiki	Pollen analysis of sediment core from Yukashigata Lagoon, western Japan: revealing human induced paleovegetation changes during the past 1500 years	共著	2025 年 3 月	<i>Terrestrial, Atmospheric and Oceanic Sciences</i> 36(1)	Toshimichi Nakanishi, Kazuyoshi Yamada, Kaoru Tabata, Haruhiro Ikeda	オンライン 掲載	有
12	Yu Fukumoto	Late Holocene paleoclimate reconstruction of northern Taiwan using a multiproxy approach in the Dream Lake sediment core	共著	2024 年 5 月	<i>Quaternary International</i> No.693	Abdur Rahman, Wei-Cheng Chang, Kaoru Kashima, Jyh-Jaan Steven Huang, Ludvig Löwemark, Liang-Chi Wang, Yuan-Pin Chang	pp.27-37	有
13	Yu Fukumoto	Response of diatom and cladoceran assemblages to artificial modifications on Sun-Moon Lake over the past century	共著	2024 年 9 月	<i>Journal of National Taiwan Museum</i> 77(3)	Shinya Ochiai, Kenji Kashiwaya	pp.19-36	有
14	小野 林太郎	「島への移住と水産資 源の開発—ウオーレ シアにおける現生人 類の漁労技術と海洋 適応」	単著	2025 年 3 月	西秋良宏・野林厚志編著『パ レオアジア 新人文化の形 成—考古学・文化人類学か らのアプローチ』, 新泉社		pp.77-104	有
15	藤木 利之	山形県および秋田県 沿岸から報告されて いるイベント堆積物の 成因	共著	2025 年 3 月	『東北地域災害科学研究』 Vol.61	角田海斗・和田凌 汰・鎌滝孝信・植松 暁彦・齋藤龍真・駒 木野智寛	pp.53-57	無
16	郡山 志保	「定府大名領におけ る所領支配の確立と 変容—堅田藩堀田家 を事例として—」	単著	2025 年 3 月	『社会システム研究』, 社会シ ステム研究所, 50 号		pp.51-72	有
17	那須 浩郎	考古学と植物学 1: 植 物遺存体からみた生 活環境	単著	2024 年 4 月	考古学研究会編『考古学研 究会 70 周年記念誌 考古 学の輪郭』		pp.234- 235	有
18	那須 浩郎	雑穀の利用と伝播	単著	2024 年 5 月	『考古学ジャーナル』797 巻, ニユー・サイエンス社		pp.15-18	有
19	福本 侑	奈良県曽爾高原, お 亀池湿原における堆 積物の珪藻分析によ る完新世の環境復元	単著	2025 年 3 月	『大阪市立自然史博物館研 究報告』79 巻, 大阪市立自 然科学博物館		pp.61-72	有
20	福本 侑	長崎県唐臼湿原にお ける縄文時代前期以 降の植生変遷	単著	2025 年 3 月	『環太平洋文明研究』9 号. 環太平洋文明研究センター		pp.35-54	無
21	保井 智香子	「朝食欠食による人柄 類型別精神的健康と 曲線変化〜内田クレ ベリン検査を用いた 検討〜」	共著	2025 年 3 月	『内田クレベリン精神検査研 究』, 内田クレベリン精神検 査研究会, 13 巻	石崎 昌和, 山下 歩, 東山明子	pp. 21-34	有
22	保井 智香子	「朝食摂取有無による 生理面・心理面の違 いの検討—アスリート	共著	2025 年 3 月	『内田クレベリン精神検査研 究』, 内田クレベリン精神検 査研究会, 13 巻	東山明子, 石崎昌 和	pp 21-34	有

		学生と一般学生の比較」						
23	Fumiaki Inagaki	A predictive model of long-term performance assessment of Ground Source Heat Pump (GSHP) systems in Japanese regions	共著	2024 年 5 月	<i>Geothermics</i> , Vol.119, doi.org/10.1016/j.geothermics.2024.102955	Saeid Mohammadzadeh Bina, Hikari Fujii, Hiroyuki Kosukegawa	オンライン掲載	有
24	Fumiaki Inagaki	Exploring the Macroeconomic Effects of Renewable Energy in Tajikistan: An Empirical Analysis	共著	2024 年 4 月	<i>Economies</i> , 12(5), doi.org/10.3390/economies12050099	Mirzosaid Sultonov, Behruz Hasanov, Pirumsho Valizoda	オンライン掲載	有
25	宮脇 昇 玉井 良尚	ハイブリッド・ゲーミングの『音の問題』: 逆デジタル・ディバイドを越えられるか	共著	2024 年 7 月	『シミュレーション&ゲーミング』, 34 巻 1 号, 日本シミュレーション&ゲーミング学会	河村律子, 森隆知, 吉永潤, 阪井土紋, 近藤佑哉	pp.14-20	有
26	内尾 太一	「震災復興のデジタル公共人類学——動態地誌としてのオンラインマップとその探索」	単著	2025 年 3 月	『文化人類学』, 日本文化人類学会, 89 巻 4 号		pp.563-580	有
27	Satoru GOTO	“An Exploratory Research on Technological Gatekeepers of Cultural Production in Industry–University Collaboration”, “International Journal of Japan Association for Management Systems” Collaboration	共著	2024 年 7 月	<i>Japan Association for Management System</i> , Vol.16, no.1	Yitong FEI	pp.51-62	有
28	シン ジュヒョン	『教育』と『ゲーム』の間で—シリアスゲームの可能性を切り拓く—	単著	2024 年 6 月	『コンピュータ&エデュケーション』, 56 巻		pp.24-30	有
29	シン ジュヒョン	インパクトゲームをめぐる探索的研究: 『Unfolded: Camellia Tales』に注目して	単著	2024 年 7 月	『POST 設立 30 周年記念論文集』		pp.126-131	有
30	シン ジュヒョン	医療・健康分野におけるシリアスゲームの可能性を考える	単著	2024 年 9 月	『作業療法ジャーナル』, 58 巻 10 号		pp.994-999	有
31	Zenta Nishio	Between Encroachment and Governmentality: Trajectories of Informality in the Jeepney Sector under Modernization in Metro Manila	単著	2024 年 11 月	<i>Aghantao</i> 32		pp.1-22	有
32	後藤 智	The Transformation of Family-Owned Enterprises into Design-Intensive Firms	単著	2024 年 11 月	<i>Forum Scientiae Oeconomia</i> , 12 巻 3 号		pp.8-24	有
33	後藤 智	「負の循環を生む組織アイデンティフィケーションの課題と展望—創造的視点から」	単著	2024 年 11 月	『立命館経営学』 63 巻 4 号		pp.69-83	有
34	山田 圭太郎 中川 毅	「動画観察に基づく水月湖の堆積環境」	共著	2025 年 3 月	『環太平洋文明研究』, 環太平洋文明研究センター, 第 9 号	平山巧馬, 宮本康, 朝日博史	pp.68-79	無

35	NOXON, Corey Tyler	3D Model Creation and Processing of Tsuzuraozaki Lakebed Site Pottery	単著	2024年12月	『立命館文学』,立命館大学 人文学会,691号		pp.175- 200	無
36	NOXON, Corey Tyler	Digital Resilience in Digital Archaeology: An Approach from a Photogrammetry Project-based Perspective	単著	2025年3月	『環太平洋文明研究』9号,環 太平洋文明研究センター		pp.55-67	無
37	鎌谷 かおる	「堅田藩の『御用専 菜』」	単著	2025年3月	『近江堅田の歴史と史料』1 号, 堅田大庄屋研究会		pp.17-20	無
38	郡山 志保	「『本堅田諸色留帳』 にみる堅田での相撲 興行」	単著	2025年3月	『近江堅田の歴史と史料』1 号, 堅田大庄屋研究会		pp.21-28	無
39	矢野 健一	「書評 斎藤成也 2023『核DNA解析で たどる日本人の源流』 河出文庫,河出書房 新社」	単著	2025年3月	『環太平洋文明研究』9号,環 太平洋文明研究センター		pp.92-97	無
40	内尾 太一	災害被災地における 自動化されたデジタル レスノグラフィー	単著	2024年9月	『人工知能』, 人工知能学会, 39巻5号		pp.602- 607	無
41	富田 敬大	(総説) モンゴルの牧 畜—伝統・社会主義・ 現在	単著	2024年4月	アジア・マップ:アジア・日本 研究 Web マガジン 2, (https://www.ritsumei.ac.jp/research/ai/asia_map_vol02/mongol/country/)		オンライン 掲載	無
42	稲垣 文昭	「実践知としての地域 研究のリテラシー:タ ジキスタンにおけるエ ネルギーアクセス向 上を目指して」	単著	2025年3月 予定	『SFC Journal』24巻2号,慶 應SFC学会		pp.86-93	無
43	小川 さやか	臨床知でテクノロジー を飼いならす	単著	2024年6月	『アステイオン』, 公益財団法 人サントリー文化財団, 100 号		pp.113- 118,352	無
44	小川 さやか	『エンデの遺言』社会 を変えるお金	単著	2024年6月	『現代思想 6月臨時増刊号 15歳からのブックガイド』, 青土社, 第52巻8号		pp.155- 160	無
45	小川 さやか	『利他的な脳』が世界 を救う-対談:福岡伸 一(生物学者)	単著	2024年7月	『週刊文春』,文藝春秋,第66 巻28号		pp. 54-57	無
46	小川 さやか	「情報テクノロジーを 駆使したマルチサイ テッド民族誌」	単著	2024年12月	『社会人類学年報』, 東京都 立大学社会人類学会,50巻		pp.89-99	有
47	村尾 るみこ	「北西インド農村にお ける調査報告」	単著	2025年3月	『環太平洋文明研究』,環太 平洋文明研究センター, 9号		pp.80-91	無
48	有馬 恵子	「『集合的エスノグラ フィ』という方法の可能 性」	単著	2025年3月	『同志社大学社会調査実習 報告書「重なりあう二つの世 界—京都・出町／ネバー ル・マツチャカンヤー」』, 33 号		pp. 2-7	無
49	ふくだべろ(福 田浩久)	「歴史的民族誌から再 考する国家と狩猟採 集社会の関係—トゥ ワ・ピグミーの事例—」	単著	2025年3月	『スワヒリ・アフリカ研究』, 大 阪大学大学院人文学研究科 外国学専攻 スワヒリ語研究 室		pp.1-24	有
50	ふくだべろ(福 田浩久)	「わたしたちは毎日殺 し合っている—トゥワ・ ピグミーの平等主義 的暴力とポリエモーシ ョン=ボディ」	単著	2025年3月	『文化人類学』89巻4号, 日 本文化人類学会		pp.495- 515	有

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Atsushi Yamamoto	「Locality on the Frontier」	2024 年 4 月	Society for American Archaeology, 89th Annual Meeting, New Orleans, USA	Oscar Arias Espinoza. Juan Pablo Valgaz Díaz
2	Atsushi Yamamoto	「Entre dos frentes: Cerro Narrio y Loma de Pinzhul durante el Periodo Formativo del Cañar, Ecuador」	2024 年 4 月	Society for American Archaeology, 89th Annual Meeting, New Orleans, USA	Oscar Arias Espinoza, Juan Pablo Vargas Díaz
3	Ikuko Kitaba Takeshi Nakagawa	「New marker grains! - ‘Palynospheres’ as marker grains for microfossil analyses with improved performance」	2024 年 5 月	IPC XV 2024, Prague, Czech Republic	Tom Johnston
4	Saucedo Segami Daniel	「El Proyecto Nikkei de la Universidad Ritsumeikan: Una aproximación a estudios de diáspora entre Perú y Japón desde una perspectiva interdisciplinaria」	2024 年 8 月	Simposio Internacional Perspectivas Interdisciplinarias sobre la diáspora entre Peru y Japon. Lima, Peru	
5	Takeshi Nakagawa	「Much Faster Counting! (PolyCounter 3.2 software and special keyboard - an addictive system)」	2024 年 5 月	IPC XV 2024, Prague, Czech Republic	
6	Yuichi Matsumoto	「Excavaciones arqueológicas en el centro ceremonial de Chupas, Ayacucho: primera temporada de campo 2023」	2024 年 11 月	“XI Congreso Nacional de Arqueología”, Ministerio de Cultura-Peru	Yuri Cavero Palomino
7	Yuichi Matsumoto	「Evidencias del arte figurativo Chavín en el centro ceremonial de Campanayuc Rumi, Ayacucho」	2024 年 10 月	“III Seminario Internacional de Estudios sobre Arte Prehispánico en México y Perú: Diálogos Latinoamericanos: Aprendizajes en los Estudios sobre Historia y Arte Indígena”. Universidad Nacional Mayor de San Marcos	Yuri Cavero Palomino
8	Chikako Yasui	「Nutrition and blood hemoglobin concentration during growth」	2024 年 6 月	International Congress of Nutrition and Dietetics, 19th International Congress of Nutrition and Dietetics, Toronto, Canada	Noriko Fukuda, Rikio Takao, Emi Nakamura, Yukiko Kawakami, Fumiko Okazaki, Masayuki Yamamoto, Tomiyo Nakamura
9	NOXON, Corey Tyler	「How much is too much? Overcoming difficulties associated with large photogrammetry data sets」	2024 年 4 月	Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology (CAA), Across the Horizon CAA 2024, Auckland, New Zealand	
10	Hiroo Nasu	Use of Introduced and Native Plants by Early Humans in the Japanese Archipelago	2024 年 4 月	SYMPOSIUM THE ARCHAEOBOTANY OF EARLY PEOPLE: PLANT EXPERIMENTATION AND CULTURAL INHERITANCE, In:Society for American Archaeology (SAA) 89th Annual Meeting, New Orleans, USA	
11	Hiroo Nasu	Changes in Plant Use from the Jomon to the Yayoi Period	2024 年 7 月	Transition to Agriculture at the edges of Eurasia Neolithisation in the British Isles and the Jomon-Yayoi transition Symposium, Cambridge, UK,	
12	Hiroo Nasu	Domestication of Soybean, Azuki Bean, and Barnyard Millet in the Jomon Culture of the Japanese Archipelago	2024 年 9 月	Domesticating Earth, The Beginnings of Agriculture Revisited, Ringberg Castle, Germany.	
13	Rintaro Ono	Introducing Type II collagen to ZooMS; species identification of	2024 年 8 月	Oral communication at: ICAZ Fish Remains Working Group Toronto, Canada.	Buckley, M.; Boulanger, C.; Oldfield, E.-M.; Elliot-Smith, E.; Braje, T.; Rick, T.; Kitchener, A.;

		archaeological elasmobranch skeletal tissues using collagen peptide mass fingerprinting.			Oliveira, C.; LeFebvre, M.
14	Rintaro Ono	Widening the net: Reconstructing past maritime subsistence strategies using multidisciplinary approaches in the Ryūkyū Archipelago, Okinawa, Japan.	2024 年 8 月	Oral communication at: ICAZ Fish Remains Working Group Toronto, Canada.	Boulanger, C.; Buckley, M.; Onishi, Y.; Tayasu, I.; Nakazawa, T.; Katagiri, C.
15	Rintaro Ono	Hasanuddin 2025 Human Migration and Maritime Adaptation from the Late Pleistocene to the Early Holocene in Western Wallacea.	2025 年 2 月	BRIN Lecture in Archaeology. BRIN, Jakarta	
16	Rintaro Ono	Tools, Resource Use and Maritime adaptation on coastal environments in Wallacea.	2025 年 3 月	International Workshop on Southeast Asian Prehistory and Human behavior in Material Culture. Ateneo de Manila University, Philippines.	
17	Yamada Kazuyoshi	Last 2000-year coastal environmental changes in the Kii Peninsula, central Japan	2024 年 5 月	JPGU2024, Makuhari Messe, Chiba	Tabata K., Ikeda H., Fujiki T., Nakanishi T.
18	Yu Fukumoto	Diatom fossil assemblages of Meike-pond, Oki Island for the last 1 thousand years	2024 年 5 月	Japan Geoscience Union Meeting 2024, Makuhari Messe, Chiba	Kota Katsuki, Toshimichi Nakanishi
19	Yu Fukumoto	Reconstruction of environmental and flooding histories since AD1250 at three annually laminated lakes in the Central Finland presumed by diatom assemblages	2024 年 10 月	The 18th East Eurasia International Workshop EEIW 2024, Kunibiki Messe, Matsue	Kaoru Kashima, Timo Saarinen
20	小野 林太郎	「国立民族学博物館における舟標本の過去・現在・未来—東南アジア・オセアニア資料を中心に」	2024 年 11 月	国立民族学博物館共同研究「国立民族学博物館における資料収集活動の研究—創設後 50 年のレビュー」(代表:飯田卓)、国立民族学博物館開催	
21	小野 林太郎	「土器からみたオーストロネシア語族の拡散仮説再考—東南アジアの土器伝統とラピタ式土器—」	2024 年 12 月	東南アジア考古学会大会、上智大学	
22	小野 林太郎	「考古学とオーストロネシア研究—海域世界研究へのアプローチ」	2025 年 2 月	第 3 回 MAPS 合同研究大会、東京都立大学	
23	藤木 利之 山田 和芳	松江城水堀堆積物から復元した近過去の都市環境史	2025 年 1 月	汽水域合同研究発表会 2025、島根大学	西野愛理、瀬戸浩二、香月興太、鹿島薫、辻本彰、田中陶子、中西利典
24	藤木 利之	秋田県湯沢市、コケ沼湿原のコア試料層序	2025 年 2 月	国際火山噴火史情報研究集会 EHA1 2024-2、福岡大学	林優樹、平田竣也、奥野充、中西利典、林田明、南雅代
25	藤木 利之	秋田県湯沢市、コケ沼湿原のコア試料層序と年代	2025 年 2 月	第 36 回名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム、名古屋大学	林優樹、平田竣也、奥野充、中西利典、林田明、南雅代
26	郡山 志保	「近江国膳所藩における備荒貯蓄対策」	2024 年 6 月	東北アジア文化学会、東北アジア文化学会春季大会、大阪・大和大学	
27	那須 浩郎	考古植物学からみた日本列島における栽培植物の来歴	2024 年 8 月	第 26 回日本進化学会、神奈川	

28	藤木 利之	秋田県湯沢市、コケ沼湿原のコア試料層序	2025 年 2 月	国際火山噴火史情報研究会 EHAJ 2024-2、福岡大学	黒木瞭、奥野充、中西利典、林田明、南雅代
29	福本 侑	珪藻群集を用いた台南市鹽水(Yanshui)溪における環境モニタリング	2024 年 8 月	日本第四紀学会 2024 年大会、東北大学	鹿島薫、劉厚均、汪良奇
30	福本 侑	隠岐諸島島後、女池における過去約千年間の水環境変化	2025 年 1 月	汽水域合同研究発表会 2025、島根大学	香月興太、中西利典、北川浩之、汪良奇
31	藤木 利之 山田 和芳	カンボジア中部サンボー・プレイ・クック遺跡:都城環濠堆積物の花粉・木炭片分析による古環境復元	2024 年 6 月	国際火山噴火史情報研究会 EHAJ 2024-1、大阪公立大学	下田一太、中西利典、鹿島薫、森勇一
32	藤木 利之 山田 和芳	カンボジア中部サンボー・プレイ・クック遺跡:都城環濠堆積物の多角的分析による古環境復元の予察的研究	2024 年 8 月	日本第四紀学会 2024 年大会、東北大学	下田一太、中西利典、鹿島薫、森勇一
33	藤木 利之 山田 和芳	松江城四十間堀川から得られた堆積物の花粉分析結果(予報)	2025 年 1 月	汽水域合同研究発表会 2025、島根大学	瀬戸浩二、香月興太、鹿島薫、辻本彰、岡野美郷、西野愛理、田中陶子、中西利典
34	藤木 利之	佐渡島 杉池から採取された堆積物の花粉分析結果(予報)	2025 年 2 月	国際火山噴火史情報研究会 EHAJ 2024-2、福岡大学	林蓮太郎、奥野充
35	INAGAKI Fumiaki	「Resource Governance and Public Goods」	2024 年 6 月	CEEISA-ISA Joint International Conference, University of Rijeka, Croatia	UJII Ayaka, ROSIEK Ksymena, TORIYA Hisatoshi
36	Miyawaki Noboru	「Re-evaluation of the proposal of the CSCE in Asia; possibility of creating the forum for the cooperative security from the perspective of Japan」	2024 年 5 月	NORTH-EAST ASIAN SECURITY COOPERATION INITIATIVES, PARTICIPATION AND PERSPECTIVES OF COUNTRIES, Defense University of Mongolia, Mongolia,	
37	Uchio Taichi	「From Tragedy to Resilience: Dignity-Focused Responses in the Aftermath of Japan's 3.11. Earthquake」	2024 年 6 月	The Academic Council on the United Nations System, Annual Meeting 2024, Tokyo, the University of Tokyo, Komaba	
38	Takahiro Tomita	Severe winter disasters (dzud) between the socialist era and the present: What can we learn from past disasters?	2024 年 11 月	Symposium: Contemporary Issues in a Land of Climatic Extremes, Canberra, Australian National University ACT	
39	Takahiro Tomita	Food security and small-scale dairy production in Mongolia	2025 年 3 月	The 7th Oxford Interdisciplinary Desert Conference, Oxford School of Geography and the Environment, University of Oxford	
40	Rumiko Murao	「Local Integration and Resilience of Mbunda People in Zambia」	2024 年 9 月	Associazione per gli Studi Africani in Italia, University of Messina	
41	Sayaka Ogawa	Session 1:Transition and Transformation: The Quest for Well-being in a Dynamic Environment	2024 年 12 月	The GASP-EES International Symposium “Crisis of Wellbeing and Wellbeing in Crisis Across Borders”(東北大学 環境・地球科学国際共同大学院プログラム),仙台・東北大学	
42	シン・ジュヒョン	「シリアスゲームから考える『僕らの‘ゲーム語り’』―日韓インディゲーム制作者に注目して」	2025 年 2 月	東亜大学ジェンダーアフェクト研究所/立命館大学コリア研究センター2025 国際共同研究シンポジウム「好感と憎悪をめぐる情動政治学 ―移動・労働・情動の東アジア複合体制―」立命館大学	

43	Saucedo Segami Daniel	「Patrimonio arqueologico y politica: Problemas y posibilidades de los sitios arqueologicos como capital politico en Lima, Peru」	2024 年 5 月	日本ラテンアメリカ学会, 第 45 回日本ラテンアメリカ学会定期大会, 神奈川, 慶應義塾大学日吉キャンパス	
44	Saucedo Segami Daniel	「Cultura Material e identidad: Una aproximacion interdisciplinarian a la diaspora entre Peru y Japon」	2024 年 5 月	日本ラテンアメリカ学会, 第 45 回日本ラテンアメリカ学会定期大会, 神奈川, 慶應義塾大学日吉キャンパス	
45	山田 圭太郎	「Rgrains:画像解析による粒子形状の測定・解析の効率化」	2024 年 4 月	日本堆積学会, 熊本	石村大輔, 鳴澤美羽, 石澤堯史, 山田昌樹
46	山田 圭太郎 北場 育子 中川 毅	「水月湖の花粉化石酸素同位体比に見られるオービタルスケール変動」	2024 年 5 月	日本地球惑星連合大会, 千葉	大森貴之, 朝日博史,
47	山田 圭太郎 北場 育子 中川 毅	「水月湖年縞堆積物から得られた過去 1-2 万年前の花粉化石 ¹⁴ C 年代」	2024 年 8 月	日本第四紀学会, 仙台	大森貴之
48	サウセド・セ ガミ・ダニエル・ダンテ	「パブリック考古学と町内会ーペルーリマ市における考古遺産保護への市民協力」	2024 年 12 月	古代アメリカ学会, 第29回研究大会・総会, 神奈川・慶應義塾大学日吉キャンパス	
49	荘司 一步	「環境と人のインタラクションから初期モニュメントの生成過程を探る:ペルー北部中央海岸のプラヤ・クレブラス遺跡」	2025 年 1 月	学術変革領域研究(A) マテリアマインド物心共創人類史学の構築, 第2回全体会議, ポスター発表, オンライン	
50	鎌谷 かおる	「江戸時代の「もどき料理」の現代的活用と普及手法の構築〜メニュー化およびイベント出展を通じた実践的検証」	2024 年 9 月	和食文化学会, 和食文化学会第 7 回研究大会, 長野市・長野県立大学三輪キャンパス	三浦加帆,雲日真利,倉本恵梨,山野井豪,今井寛人,大前亜悠,川崎賢人,松田梨沙,稲垣由希奈,上田朋佳
51	鎌谷 かおる	「地域に根差した中小水力発電復興のための歴史・社会研究の統合」	2024 年 9 月	第 32 回地球環境シンポジウム,土木学会地域環境委員会,熊本県立大学	増原直樹
52	矢野 健一 Corey Tyler NOXON	「葛籠尾崎湖底遺跡における AUV による遺物分布調査」	2024 年 4 月	考古学研究会, 考古学研究会第 70 回総会・研究集会, 岡山市・岡山大学,	熊谷道夫,西田祐也,杉松治美,井上昇悟,小田崎老成,宮川亮
53	矢野 健一 Corey Tyler NOXON	「滋賀県米原市杉沢遺跡 2023 年度発掘調査成果と土器棺出土状況の3D 画像復元」	2024 年 5 月	日本考古学協会,日本考古学協会第 90 回総会,千葉市・千葉大学西千葉キャンパス	迫田圭一郎,菅井佳穂,井上薫,手嶋響紀,高橋順之,石田雄志,立命館大学杉沢遺跡発掘調査団
54	矢野 健一	「AUV を用いた葛籠尾崎湖底遺跡探査の概要」	2024 年 7 月	日本文化財科学会,日本文化財科学会第 41 回大会, 東京都・青山学院大学	熊谷道夫,西田祐也,杉松治美,井上昇悟,宮川亮,小田崎老成
55	矢野 健一	「琵琶湖の水中考古学の成果と課題」	2024 年 9 月	琵琶湖・環境イノベーションセンター,琵琶湖・環境イノベーションセンターシンポジウム「琵琶湖の環境〜古(い)こしえ)から現在まで〜」滋賀・立命館大学びわこ・くさつキャンパス	
56	矢野 健一	「山内清男の高島黒土遺跡発掘成果と縄文土器編年研究」	2024 年 9 月	関西縄文文化研究会, 山内清男考古資料高島黒土遺跡出土資料見学&意見交換会,奈良・奈良文化財研究所,	
57	保井 智香子	「女子大学生の食行動と精神健康度との関連」	2024 年 9 月	日本栄養改善学会, 第71回日本栄養改善学会, 大阪・大阪公立大学	東山明子, 中村富予, 竹山育子, 船越正康
58	保井 智香子	「中学生女子バレーボールチー	2024 年 9 月	日本スポーツ心理学会, 日本スポーツ心理学会第 51 回大会, 広島・広島大学	石田由美子, 本田智巳, 東山明子, 船越正康

		ム 3 連覇の背景要因—内田クレベリン検査および食意識・食行動による検討—			
59	保井 智香子	「運動部所属学生の朝食摂取と精神的健康・自覚的疲労感との関連」	2024 年 9 月	日本スポーツ栄養学会, 日本スポーツ栄養学会第 10 回大会, 埼玉・女子栄養大学	石崎昌和, 山下歩, 東山明子
60	保井 智香子	「朝食摂取有無がアスリートに及ぼす影響」	2024 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会, 福岡・福岡大学	東山明子
61	保井 智香子	「地域在住高齢者への効果的な食支援に向けた当事者理解のための一考察:M-GTA による背景要因の形式知化」	2024 年 9 月	日本栄養改善学会, 第71回日本栄養改善学会, 大阪・大阪公立大学	石田由美子, 工藤麻子, 太田はるか
62	鎌谷 かおる	「地域の歴史の繋ぎ方—過去を知り、今を考え、未来を展望するために—」	2025 年 3 月	日本村落研究学会, 関西・東海地区研究会,大阪府・大阪産業大学梅田サテライトキャンパス	
63	保井 智香子	「大学生の居住形態別による自然災害に対する備蓄に関する検討」	2025 年 3 月	日本健康体力栄養学会, 第32回日本健康体力栄養学会, 千葉・順天堂大学	末次亜連, 中村絵美, 高尾理樹夫, 荒木一視
64	保井 智香子	「高校生および大学生女子陸上選手の栄養評価」	2025 年 3 月	日本健康体力栄養学会, 第32回日本健康体力栄養学会, 千葉・順天堂大学	中村絵美, 富山朝代, 金岡有奈, 高尾理樹夫
65	保井 智香子	「中高年男性の C-Reactive Protein とメタボリックシンドロームの関連性」	2025 年 3 月	日本健康体力栄養学会, 第32回日本健康体力栄養学会, 千葉・順天堂大学	高尾理樹夫, 藤田由江, 中村絵美
66	矢野 健一	「押型文土器の起源と変遷」	2025 年 3 月	関西縄文文化研究会、関西縄文文化研究会第 19 回研究集会,京都市・京都大学文学部	
67	内尾 太一	「災害被災地への近接／遠隔アプローチ:東日本大震災と西日本豪雨のフィールド経験を通して」	2024 年 4 月	第 176 回北陸地区研究懇談会「能登半島地震と人文学／人類学」連続セミナー第 2 回、金沢大学	
68	富田 敬大	「現代モンゴルにおけるフードセキュリティと小規模酪農生産」	2024 年 7 月	第 99 回神戸人類学研究会, 神戸大学	
69	宮脇 昇	「沈黙の政治学的に考える意義と方法」	2024 年 6 月	日本比較政治学会 2024 年度研究大会, 立命館大学	
70	内尾 太一	「漂流するモノたち—3.11 が北米沿岸部にもたらした脅威と絆の民族誌的研究—」	2024 年 12 月	日本文化人類学会, 中部地区研究懇談会(中部人類学談話会第 272 回例会), 愛知県・南山大学	
71	玉井 良尚	「報復制裁としての『水の武器化』の考察」	2024 年 10 月	日本平和学会, 2024 年度秋季研究集会,オンライン	
72	富田 敬大	「社会主義モンゴルにおける家畜と人間の関係:牧畜の産業化は何をもたらしたか」	2024 年 12 月	歴史学会第 49 回シンポジウム<人間と動物の関係史—「近代化」をめぐる—>, 東京・大妻女子大学	
73	富田 敬大	「現代モンゴルにおけるフードセキュリティと小規模酪農生産」	2024 年 12 月	EES「なりわいとグローバル経済」第 1 回研究会、オンライン	
74	宮脇 昇 稲垣 文昭	「ハイブリッド・ゲーミングの情報格差:資源地政学ゲーミングを事	2024 年 11 月	日本シミュレーション&ゲーミング学会, 2024 年度秋期全国大会, 高松・サンポート高松	玉井雅隆

		例に」			
75	小川 さやか	「サイバー空間のフィールドワーク」	2024 年 8 月	2024 年度日本建築学会大会 建築計画部門—パネルディスカッション フィールドワークの新しい方法—「みる」と「知る」の再接続”シンポジウム、日本建築学会大会 建築計画部門、オンライン	
76	シン ジュヒョン	「 Trailblazers! Exploring Indie Game Developers in Japan and South Korea」	2024 年 9 月	Replaying Japan 2024, Replaying Japan, University at Buffalo, The State University of New York (Buffalo)	
78	村尾 るみこ	「紛争後のアンゴラにおける再統合と共生—トモロコシの販売戦略」	2024 年 6 月	第 34 回日本熱帯生態学会年次大会 (JASTE 34) 福井大会, 日本熱帯生態学会, 福井県国際交流会館,	
79	村尾 るみこ	「アフリカに学ぶ、アフリカを教える—NPO 活動・大学教育・研究の融合とジレンマ」	2024 年 5 月	日本アフリカ学会第 61 回学術大会, 日本アフリカ学会, 大阪大学箕面キャンパス	丸山淳子・八塚春名・桐越仁美
80	村尾 るみこ	「難民定住地と再定住地に生きる—ザンビアの難民の社会統合による元難民への影響」	2025 年 1 月	日本アフリカ学会中四国支部会, 徳島・徳島大学	
81	村尾 るみこ	「遺産化する農業システムの動態理解と保全」	2025 年 1 月	京都大学東南アジア研究所共同研究会、大阪・ルミエ大阪梅田会議室	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	立命館大学サマースクール	福井県年縞博物館	2024 年 7 月	39 名	福井県年縞博物館
2	第 72 回健康医療ネットワークセミナー	メディカクラブ	2024 年 8 月	22 名	なし
3	第 73 回健康医療ネットワークセミナー	メディカクラブ	2024 年 11 月	25 名	なし
4	第 74 回健康医療ネットワークセミナー	メディカクラブ	2025 年 1 月	30 名	なし
5	健康医療開発機構 第 18 回シンポジウム	東京大学医科学研究所講堂	2025 年 3 月	100 名	なし

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	Daniel SAUCEDO	「ダニエル・サウセド・セガミ准教授、ペルーと日本での研究接点」	(https://discovernikkei.org/ja/journal/2024/6/4/daniel-saucedo-segami-1/)	2024 年 6 月
2	NOXON, Corey Tyler	「 Photogrammetry Myths - CAA Australasia Panel」	CAA Australasia, Online	2024 年 8 月
3	北川 淳子	年縞博物館ミニ企画展「北陸新幹線沿線 一度は行きたい湖沼スポット」	福井県年縞博物館展示棟	2024 年 3 月 1 日～5 月 6 日
4	北川 淳子	年縞博物館ミニ企画展「1991・1993 年水月湖・三方湖ボーリングコアの研究記録」	福井県年縞博物館展示棟	2024 年 3 月 1 日～5 月 6 日
5	北場 育子	「NHK フロンティア 古代メキシコ 失われた文明の謎」	NHK BS プレミアム	2024 年 4 月
6	北川 淳子	福井大学教育学部同窓会 福応会 講演「7 万年のすごい縞 水月湖の年縞」	ニューサンピア敦賀(敦賀)	2024 年 7 月
7	中川 毅	「水月湖と年縞」	日本経済新聞 (https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUD083530Y4A400C2000000/)	2024 年 5 月
8	中川 毅	「「10 年に 1 度」の気象が頻出する理由 奇跡の湖が伝える暴れる気候」	朝日新聞(https://www.asahi.com/articles/ASS7C4JWZS7CUPQJ003M.html)	2024 年 7 月

9	中川 毅	「中川毅フェローと北場育子アソシエイトフェローが、メディア関係者へ研究課題「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来」を紹介しました」	(https://rara.ritsumei.ac.jp/updates/6874/),	2024 年 8 月
10	中川 毅	「年縞博物館特別講演&トークショー『とっておきの小惑星探査「はやぶさ」と水月湖「年縞」の熱い物語』」	年縞博物館特別講演 (https://fupo.jp/event/hayabusaandnenkou/)	2024 年 9 月
11	山田 圭太郎	「オーロラ、年縞で知られる若狭の水月湖上空で撮影「研究者冥利に尽きる」」	中日新聞(https://www.chunichi.co.jp/article/898488)	2024 年 5 月
12	山田 圭太郎	「福井でも見えた！「低緯度オーロラ」 約250年前 江戸時代の福井城下では「紅の中に青白い縦線」が目撃されていた」	福井テレビ(https://www.fnn.jp/articles/-/698941?display=full#google_vignette)	2024 年 5 月
13	山田 圭太郎	「年代測定精度を「10 倍アップ」へ水月湖「年縞」堆積物を 12 年ぶり本格的に分析」	福井放送 (https://news.ntv.co.jp/n/fbc/category/society/fb93ec4bdf7fce449995b9711753037445)	2024 年 5 月
14	小野 林太郎	「オーストロネシア語族の拡散と島嶼間ネットワークー東南アジア島嶼部・オセアニアの事例から」	「南山人類学博物館講座:旅するヒト・移動するモノへ」、南山大学人類学博物館	2024 年 5 月
15	鎌谷 かおる	カジュアル進化中！天ぷらのお金の秘密	有吉のお金発見 突撃！カネオくん NHK (VTR 出演)	2024 年 4 月
16	鎌谷 かおる	「存在感増す「キッチンカー」、実は長い歴史…源流は「振り売り」か」	読売新聞	2024 年 5 月
17	鎌谷 かおる	「子供たちの「食」を守るー学童疎開先の食生活ー」	「平和教養講座」、東近江市・滋賀県平和祈念館	2024 年 5 月
18	鎌谷 かおる	「おうみ発 630 大津の菓子文化を再発掘へ」	(スタジオ出演), NHK	2024 年 6 月
19	鎌谷 かおる	「「おから」の魅力、再発見！？」	『食物と健康』夏号 No179,神戸女子大学・神戸女子短期大学食物研究会編, pp21-23	2024 年 7 月
20	鎌谷 かおる	「大津にまつわるウナギの食文化」	大津商工会議所主催講演会, 大津市	2024 年 7 月
21	鎌谷 かおる	「かば焼きだけじゃない。ウナギ食文化ひもとく」	京都新聞	2024 年 7 月
22	郡山 志保	「江戸時代の防災対策と災害食」	公益財団法人兵庫県阪神シニアカレッジ「共通学科(教養講座)」、宝塚市・阪神シニアカレッジ	2024 年 6 月
23	郡山 志保	「江戸時代の災害」	大阪北部コミュニティカレッジ, 豊中市・北大阪生涯学習ホール	2024 年 8 月
24	郡山 志保	「江戸時代の備荒貯蓄に学ぶ、災害時の「食リスク」対策。」	『RADIANT』23 号	2024 年 9 月
25	高橋 学	「青森・岩手で震度 5 弱発生 首都圏・関西圏も要注意の長周期地震動自力で「歩くことが難しい」階級 2 観測」	zakzak by タ刊フジ	2024 年 4 月
26	高橋 学	「台湾地震 M7.2 と日本列島北から南まで大揺れの「不気味な共通項」」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024 年 4 月
27	高橋 学	「台湾地震 M7.2 と日本列島北から南まで大揺れの「不気味な共通項」」	SmartNews	2024 年 4 月
28	高橋 学	「専門家が解説 愛媛・高知の地震とインドネシアの火山噴火は南海トラフ地震と関係あるのか」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024 年 4 月
29	高橋 学	「要注意は5月！不気味な揺れが頻発「大災害を警戒すべき日本の3エリア」	FRIDAY DIGITAL	2024 年 4 月
30	高橋 学	「大地震のトリガーに 東日本大震災の約 1 カ月前に発生スロースリップとは何か」	AERA,	2024 年 5 月
31	高橋 学	「石川県能登地方で最大震度 5 強次の危険地帯は？「断層が動いていない地域がまだある」専門家 インフラ復旧への影響、被害拡大懸念」	zakzak by タ刊フジ	2024 年 6 月
32	保井 智香子	「健康の保持増進のための食生活と運動習慣～スポーツ栄養学に基づ	健康保険組合連合会大阪連合会,大阪・国民會館	2024 年 7 月

		いて～」		
33	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ①」	京都新聞	2024 年 7 月
34	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ②」	京都新聞	2024 年 7 月
35	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ③」	京都新聞	2024 年 7 月
36	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ④」	京都新聞	2024 年 7 月
37	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑤」	京都新聞	2024 年 7 月
38	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑥」	京都新聞	2024 年 8 月
39	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑦」	京都新聞	2024 年 8 月
40	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑧」	京都新聞	2024 年 8 月
41	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑨」	京都新聞	2024 年 8 月
42	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑩」	京都新聞	2024 年 9 月
43	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑪」	京都新聞	2024 年 9 月
44	保井 智香子	「簡単おいしいレシピ⑫」	京都新聞	2024 年 9 月
45	保井 智香子	「球児を育てるための栄養講座」	岩手県高校野球連盟, 岩手	2024 年 8 月
46	内尾 太一	「古代王国バラエティー なんだフル!？」	NHK 総合, 出演・監修	2024 年 6 月
47	福田 耕治	「ウクライナ戦争をめぐるEUのウクライナ支援行政」	法政大学法学部主催講演会, 法政大学本部キャンパス	2024 年 9 月
48	宮脇 昇	「ウクライナ侵攻後のヨーロッパの平和の展望」	立命館ピース・ネットワーク公開学習会, 立命館大学	2024 年 7 月
49	小川 さやか	「《多思彩々》現代にこそ必要な「老いの力」」	信濃毎日新聞 4 面,	2024 年 4 月
50	小川 さやか	「山納洋×小川さやか「アフリカ系商人たちのコモンズ」」	がくげいラボトークイベント, 学芸出版社, オンライン	2024 年 4 月
51	小川 さやか	「ひらいめぐみ×小川さやか「誰がために職は転がる——働き方の人類学」	トークイベント, オンライン／UNITÉ(三鷹市)	2024 年 4 月
52	小川 さやか	「タンザニアの商人から考えるこれからの経済」	「ローカルスタンダードをデザインする 環境人文学 I」, 明治大学駿河台キャンパス	2024 年 4 月
53	小川 さやか	「タンザニア人に学ぶ不確実な未来を生き抜く知恵」	私立桐光学園中学高等学校講演会, 私立桐光学園中学高等学校	2024 年 4 月
54	小川 さやか	「グレーバー研究会」	宇沢国際学館, 瑞泉寺	2024 年 4 月
55	小川 さやか	「石灘早紀×小川さやか「インフォーマルな世界を歩くこと」」	『運び屋として生きる』(白水社) 刊行記念トークイベント, 株式会社博報堂ケトル ストップカンパニー, オンライン	2024 年 6 月
56	小川 さやか	「アステイオン vol.100 トーク「言論のアリーナ」としての試み」	公益財団法人サントリー文化財団	2024 年 6 月
57	小川 さやか	「エスノグラフィー・プロトタイプング」	2024 年度西園寺塾, 立命館東京キャンパス	2024 年 6 月
58	小川 さやか	「《多思彩々》日常への回復へ寄りそって」	信濃毎日新聞 4 面,	2024 年 7 月
59	小川 さやか	「哲学界のロックスター」マルクス・ガブリエルの日本向け書き下ろし新刊『倫理資本主義の時代』刊行記念講演「なぜいま、倫理資本主義なのか」	講演会, ディスカッションパネリスト, 株式会社早川書房, インデックスグループ, 東京大学本郷地区キャンパス大講堂(安田講堂)	2024 年 8 月
60	小川 さやか	「他者とともに世界を想像／創造する」文化人類学のゆたかさ、おもしろさをめぐって」	学学部研究会, 株式会社ナガセ(東進ハイスクールオンライン)	2024 年 8 月
61	シン ジュヒョン	「シリラスゲームを問うー 韓国の事例を中心に」	国際ARCセミナー, Ritsumeikan Center for Game Studies, University of London The School of Oriental and African Studies, The Art Research Center of	2024 年 4 月

			Ritsumeikan University 共催, オンライン	
62	シン ジュヒョ ン	「シリアスゲームの社会的受容を問うー韓国的事例にみる『ゲーム』と『教育』の社会文化的研究」	公開書評会, 科研費獲得推進プログラム「障害のある学生・教員の教育および研究活動を支えるアクセシビリティ」, 立命館大学生存学研究所共催, キャンパスプラザ京都	2024年6月
63	中川 毅	「「暴れる気候」解明 年縞掘削へ」	福井新聞 1面	2024年11月
64	中川 毅 北場 育子	「NHK フロンティア 地磁気と生命 40億年の物語」	NHK BS/BS4K	2025年2月
65	北場 育子 北川 淳子	令和6年度年縞博物館特別展「ナウマンゾウやネアンデルタール人が見た夜空」	福井県年縞博物館・若狭三方縄文博物館	2024年10月2日～2025年1月7日
66	北川 淳子	若狭町 年縞、縄文博特別展 26日記念シンポ	福井新聞朝刊 25面	2024年10月
67	北川 淳子	太古のオーロラ思いはせ 解説や写真、スケッチ展示	日刊県民福井 5面	2024年12月
68	北川 淳子	地球のS極N極今と違った? 地磁気極4万年前の変動	読売新聞 20面	2024年12月
69	北場 育子	「シマシマ地層を掘れ!! 気候変動とマヤ文明 謎に迫る」	しんぶん赤旗	2025年1月
70	北場 育子	「解き明かせ!! 暴れる気候」	しんぶん赤旗	2025年1月
71	北川 淳子	新知創造学際ハブ 一般講演会「年代のものさしになった水月湖の年縞」	東北大学金属材料研究所	2025年2月
72	小野 林太郎	「東南アジア島嶼部の考古学とその最前線ー東南アジア島嶼部の事例からー」	日本考古学協会カフェ de 考古学(オンライン)	2024年11月
73	小野 林太郎	「東南アジアの洞窟遺跡と海を渡ったサビエンス」	樫原考古学研究所研究講演会「東南アジアの洞窟遺跡」	2025年3月
74	鎌谷 かおる	「江戸時代の『食』から考えるフードテックもどき料理を事例にー」	京都フードテック研究連絡会議 令和6年度 第3階セミナー&交流会, 京都府・京都リサーチパーク 4号館	2024年12月
75	鎌谷 かおる	「民謡から紐解く日本の「食」」	『食物と健康』神戸女子大学・神戸女子短期大学食物研究会, 冬号 180号, pp.21～23	2024年12月
76	鎌谷 かおる	「「FOOD 発見」料理の言葉かるた あいまい表現が生む「良い」加減」	朝日新聞	2025年1月
77	鎌谷 かおる	「江戸時代の『食』から考える、気候危機時代の『食』」	Climate Creative Café.18 気候危機時代の食を、江戸の暮らしから考える。これからの食文化とそれを支える仕組みとは, オンライン	2025年2月
78	鎌谷 かおる	「地域の『食』の歴史が語るものー過去を知ることは、未来を考えること」	まちづくりソーシャルデザイナー育成プログラム「文化とライフスタイルをめぐる動向」コース SSPPウェビナー, オンライン	2025年2月
79	鎌谷 かおる 郡山 志保	「区誌を編むということ」	『湖国と文化』, びわ湖芸術文化財団, 第190号, pp.34～37	2025年1月
80	郡山 志保	「江戸時代の飢饉対策と救荒食」	立命館土曜講座, 京都府・立命館大学末川記念会館	2025年3月
81	那須 浩郎	「なぜ縄文に農業始まらず?」	日本経済新聞(科学で迫る日本人)	2025年2月
82	保井 智香子	「ずっと笑顔で健康に! 女子学生のためのウェルネスジャーニー」	2024ダイバーシティ&インクルージョンセミナー, 滋賀県・立命館大学	2024年12月
83	保井 智香子	「健康寿命をのばすためにー食生活と運動習慣からのアプローチー」	丸亀市食育講演会, 香川県・丸亀市ひまわりセンター	2025年1月
84	保井 智香子	「スポーツを好む中学生の望ましい食事ーベストな状態で競技に臨むためにー」	学校保健委員会, 滋賀県甲賀市・甲賀市立水口中学校	2025年2月
85	保井 智香子	「何をどのように食べるとよい?ープラス1品を意識して食べてみようー」	川俣高等学校ライスボールセミナー, 福島県・福島県立川俣高等学校	2025年2月
86	山田 和芳	ASGM 研究の動向と今後の方向性	Proceedings of Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics (Proceedings of Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics)	2024年12月
87	内尾 太一	「モアイの真実 イースター島 繁栄と崩壊」	NHKBS『フロンティア』	2024年10月
88	内尾 太一	「自然災害と被災者の尊厳」	東京大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム 創設 20周年シンポジウム, 東京都・東京大学駒場キャンパス	2024年12月
89	内尾 太一	「津波の国際的な影響を考える: 地球規模のリスクと私たちの防災」	しずおか防災コンソーシアム, 第171回ふじのくに防災学講座, 静岡県・静岡県地震防災センター	2025年3月
90	福田 耕治	「充電規格を統一する改正 EU 指令 (USB Type C)をめぐる政治・行政過	国際政治統合研究会, 同志社大学	2025年1月

		程—マルチレベル・ガバナンスの視点から」		
91	福田 耕治	「EU おけるビジネスと人権—持続可能な企業デューデジレンス指令と日本企業への影響」	グローバル・ガバナンス学会第 21 回研究会, 立命館大学	2025 年 2 月
92	宮脇 昇	「欧州の安全保障の観点から」	日本国際フォーラム(JFIR), ウェビナー第5回「トランプ政権誕生後の欧米関係—ウクライナ、ガザへの対応をめぐって—」, オンライン	2024 年 12 月
93	小川 さやか	「次世代経営リーダー研修」株式会社不識庵	JR 信濃町ビル三菱 UFJ 信託銀行研修室「信の森」	2024 年 10 月
94	小川 さやか	「多思彩々茶の間から変える民主主義」	信濃新聞, 6 面	2024 年 10 月
95	小川 さやか	「書評『ニューノマド』フェリクス・マークオート著」	日経電子版、日経新聞社	2024 年 10 月
96	小川 さやか	「『目的外』のインフォーマリティー——アナーキーな自治のために／小川 さやか＋松本卓也」	『現代思想』, 2024 年 11 月号第 52 巻 17 号, 青土社, pp.43-54	2024 年 10 月
97	小川 さやか	「生き方さがしの道しるべー佐藤優 × 小川 さやか「異文化から学ぶストレス回避術」	FLIT タブロイド判／WEB 版, 132 号, 株式会社リョウマ	2024 年 11 月
98	小川 さやか	「タンザニアの若者 たちが教えるこの世界に確かにある「異なる生き方」	大学学部研究会講義ダイジェスト, 64-67 面, 東進本部	2024 年 12 月
99	小川 さやか	「エスノグラフィー・プロトタイピング」人事院ランチタイム勉強会	人事院ランチタイム勉強会運営事務局, オンライン	2024 年 12 月
100	小川 さやか	「エスノグラフィー・プロトタイピング」りそな銀行「真学塾」	株式会社セルム, オンライン	2024 年 12 月
101	小川 さやか	「文化人類学の方法とビジネスとの新しいカタチ」	会員制のセミナー「表現者塾」, 月間『表現者クライテリオン』啓文社書房 AP 西新宿会議室	2025 年 1 月
102	小川 さやか	「Living for today(その日その日を生きる)」	佐久総合病院文化講演会, 佐久総合病院, オンライン	2025 年 2 月
103	小川 さやか	「《多思彩々》茶の間から変える民主主義」	信濃毎日新聞, 10 面	2025 年 1 月
104	小川 さやか	「文化人類学とビジネスの可能性(エスノグラフィ・プロトタイピング)」	企業研究/リベラルアーツ(文化人類学), 株式会社セルム, オンライン	2025 年 2 月
105	小川 さやか	「デジタルと教育の庭」	京都芸術大学 Podcast 番組	2025 年 3 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	小川 さやか	公益財団法人 大同生命国際文化基金	2024 年度(第 39 回) 大同生命地域研究奨励賞	「東アフリカ諸国のインフォーマル経済に関する研究」	2024 年 5 月

7. 科学研究費助成事業(科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	荘司 一步	「生態資源利用とモニユメンタリティの生成からみた先史アンデス神殿出現期の研究	若手研究	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
2	山田 圭太郎	水月湖の高純度化石花粉から明らかにする未知の大気 14C 濃度変動とその原因	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
3	保井 智香子	「人柄類型別、精神的健康に着目した健康増進のための栄養教育プログラムの開発」	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
4	内尾 太一	「震災起因漂流物と瓦礫ヒッチハイカーの文化人類学」	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
5	玉井 良尚	「ポスト・ウクライナ時代に向けた社会インフラの安全保障に関する研究」	若手研究	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
6	福田 耕治	「欧州のマルチレベル行政協力の実態調査—命と生活に関わる領域での EU の新たな試み—」	基盤研究 B	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
7	小川 さやか	「ポスト・ヒューマン時代の〈人間経済〉: アジア、アフリカ、オセアニアからの再構築」	基盤研究 A	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
8	SHIN Juhyung	「シリアスゲームを用いたマルチ モーダル・エスノグラフィの人類学的研究」	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表

9	村尾 るみ こ	「アフリカにおける難民/移民と安全保障ー 安全保障化に関する実証・理論的分析」	基盤研究 B	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
10	村尾 るみ こ	「アフリカ難民の生計活動と社会福祉に関す る研究」	基盤研究 C	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
11	中川 毅	「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来	学術変革領域研究(A)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	領域代表
12	北場 育子	年縞から読み解く『暴れる』気候の歴史	学術変革領域研究(A)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	計画代表
13	北場 育子	古代マヤ人が直面した「リアルな」危機:マヤ の都市はなぜ衰退したのか?	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金(政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	内尾 太一	「Google Maps のレビューの自動収集プログ ラムを用いたフィールドワークの情報学的転 回」	国立情報学研究所公募型共同研究 (国立情報学研究所)	2024 年 4 月	2025 年 3 月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1								